

平成 28年度一般会計予算189億7000万円

筑後市に 住み続けたい まちづくり

暮らしに密着した事業をチェック!

予算特別
委員会審査
3月18日~23日

過去最高の 予算額

平成28年度一般会計、特別会計、企業会計の当初予算については、予算特別委員会を設置し、3月18、22、23日の3日間、全議員による審査を行った。

28年度一般会計予算は、第四次筑後市総合計画に基づき7つの政策及び28年度経営方針の重点施策を着実に推進することを基本に編成され、歳入歳出総額は前年度比2.9%増の189億7000万円となった。

委員会では、各款ごとに説明があり、多くの質問がなされ、採決の結果賛成多数で原案可決された。

その後、特別会計8議案、企業会計の水道事業会計について説明があり、採決の結果、全議案が原案どおり可決された。

委員会では、特に「行政区と校区コミュニティ協議会（以下「協議会」）のあり方」について質問が集中した。

6つの補助金を統合し 交付金化

新設の「地域コミュニティ活動交付金」とは、5つの協議会をモデル校区とし、既存の6つの補助金を統合し、行政区ではなく協議会へ交付するように変更したものは、新規で増額した補助金ではない。

モデル校区では、決まられた事業を行うのか、し、方向性を見出したい。市独自に行っている小学校の少人数学級編成による効果は、効果を図る目安というの難しいが、一人ひとりを細やかに指導できるといふ点では有効。保護者アンケートでは評価されている。

教育研究所内の教育 支援教室「スマイル」の 取り組みは、

スマイルに通級していた中3全員の高校進学が決定。不登校児童・生徒への教育支援が功を奏していると考えている。

その他の質疑

問 「恋の姉妹都市づくり」は3年前から予算化されているが未執行である。話は進んでいるのか。

答 相手方との協議は行っているが実現に至っていない。市長公約でもあり、ぜひ進めたい。

問 新幹線の筑後船小屋駅2階に設置の筑後七国の観光案内スペースは効果がないのでは。

答 筑後七国で費用負担しているスペース。七国の観光推進協議会で議論



防災・交流施設の整備

4億5754万円
26年3月に作成した「筑後市北部地区都市再生整備計画」に基づき、国立病院跡地に、防災・交流施設を整備します。防災施設整備や住民のコミュニティ活動の拠点形成による居住環境の向上を目指します。



問 特に決められた事業はない。

答 羽犬塚校区はまだ立ち上がっていないが、将来的には全校区でこの交付金に統一するのか。

問 一斉に移行したいという思いはあるが、まずはモデル校区からお願いする。

問 すべての協議会で理解が得られているのか。

答 協議会に対しては、羽犬塚校区の協議会設立も含め、2年間を経過措置とし、順次移行するという説明を行っている。

問 統合される6つの補助金のうちのひとつ「行政区活動補助金」は、行政区の活動に対しての補助金であるが、これを校区に交付し、行政区へ分ける作業は煩雑では。



教育環境整備事業

9309万円
児童生徒の「確かな学力の向上」「豊かな心の育成」「健やかな体の育成」の推進に努めます。
・全小学校で35人学級の編成
・校務支援システムの導入 など



若者の定住促進

4016万円
筑後市の将来人口は、2040年には4万3000人近くまで減少すると予想されます。要因となっている若者の動向に着目し、転入促進、地元定着及び婚活（結婚）支援に取り組みます。



ホークスファーム連携推進事業

2560万円
「HAWKSベースボールパーク筑後」開業に伴い、地域連携事業を推進し、青少年の健全育成やスポーツの振興を図り、ファームでの試合やホークス選手との交流を通じ、地域の活性化を図ります。



「恋のくに」観光推進事業

1938万円
市の観光資源の魅力を発信することで、観光客を増加させ、地域のにぎわいと経済の活性化を図ります。